

◎ 国語部門

1 行事及び内容

(1) 研究委員会

① 第1回研究委員会（5月31日）

- ・事業計画
- ・文集「あまくさ」第47集編集方針及び募集事項の検討

② 第2回研究委員会（1月30日）

- ・熊本県小学校国語教育研究大会の事前準備

③ 第3回研究委員会（2月25日）

- ・事業の反省及び次年度への志向

(2) 文集「あまくさ」編集委員会

① 第1回編集委員会（1月25日）

- ・編集までの日程と審査基準の確認及び審査 * 学校図書館教育部門と合同

② 第2回編集委員会（1月7日）

- ・審査反省及び入賞者名簿の作成

③ 第3回編集委員会（1月24日）

- ・第47集校正と編集反省

(3) 本年度の研究について

熊本県小学校国語教育研究大会への参加をもって、本年度の天草教育研究所国語部会の研究の取組として位置づけた。

① 公開授業

- ・場所：天草市立本渡北小学校
- ・公開授業：「話す聞く」「書くこと」「読むこと」の各領域について、12本の授業が公開された。
天草を代表して岩下博子教諭（天草市立佐伊津小学校）が「読むこと」の領域で説明文の授業（単元名：科学読み物を紹介しよう「ウナギのなぞを追って」光村4年）を公開した。

② 講演

- ・講師：吉川芳則教授（兵庫教育大学）
- ・演題：「言語活動の充実とこれからの国語科学習」

2 成果と課題

今年度は県小国研事務局の提示した研究テーマとその仮説に沿った研究を進めてきた。具体的には本大会の授業者の指導案検討会を県小国研の幹事を中心に数回実施した。また、県小国研夏季研修会では濱田祐輔教諭（上天草市立龍ヶ岳小学校）による模擬授業の提案も行った。このように研究テーマ検証の授業づくりに取り組んだ。

本大会は200名を超える参加者があった。午前中は公開授業が1から6年の各教室で行われた。その後の分科会では大会の研究主題に沿った熱心な討議がなされていた。午後の講演では、講師の先生より教材にフィットした「小さな言語活動」を継続していくことで、読み方の習熟をさせることが大切だと話された。最後に「自分の考え」を「自分のことば」表現できる力を養うことを強く指摘されて講演を終えられた。本大会で学んだことを次年度の天草国語教育部会の研究テーマ等に活用していきたい。

文集「あまくさ」第47集は今年度も学校図書館部門との合同審査を経て、予定通り発行することができた。次年度も高いレベルを保ちつつ、多くの作品応募があることを願っている。